

日本分析化学会九州支部 2017年度 幹事会 議事要旨 (案)

日時：平成 29 年 11 月 17 日 (金) 11 時 30 分～13 時 20 分

場所：熊本大学黒髪南キャンパス 仮設D棟会議室A

出席者 (敬称略・順不同)：計34名

戸田 敬 (支部長), 高椋利幸 (次期支部長),

井倉則之 (副支部長), 内原 博 (副支部長), 大平慎一 (庶務幹事), 田中明 (会計幹事), 森 健 (常任幹事), 川上健次 (常任幹事), 神崎 亮 (常任幹事),

井原敏博 (常任幹事), 原田雅章 (常任幹事), 中山守雄 (常任幹事), 吉田秀幸 (常任幹事), 佐藤 博 (幹事), 加藤祐子 (幹事), 光井康浩 (幹事), 竹中繁

織 (第78回分析化学講習会実行委員長), 佐藤しのぶ (第78回分析化学講習会庶務幹事), 片山佳樹 (幹事), 田中 充 (幹事), 下田満哉 (幹事), 松井利郎 (幹

事), 能登征美 (幹事), 北村裕介 (幹事), 梅木辰也 (幹事), 富永昌人 (幹事),

肥後盛秀 (理事), 呉 行正 (幹事), 脇田久伸 (幹事), 巴山 忠 (幹事), 山

口敏男 (幹事), 栗崎 敏 (幹事), 白土英樹 (幹事), 松田直樹 (幹事)

議事に先立ち, 9月29日に急逝された大木章先生 (鹿児島大工) に黙祷を捧げた。

議題

1. 報告事項

1) 2017年度支部事業経過報告および予定

九州分析化学若手の会 第30回春の講演会および第35回夏季セミナー

5月13日(土)に北九州国際会議場において開催された第30回九州分析化学若手の会春の講演会および7月28日(金)～29日(土)にホテルパーレンス小野屋で開催された第35回夏季セミナーについて, それぞれの世話人である佐藤しのぶ先生(九工大)および梅木辰也先生(佐賀大)より報告があった。

春の講演会は, はじめて福岡市以外での開催であったためか, 参加者が例年より少ない56名(例年100名程度)であった。

夏季セミナーについては, 例年とほぼ同じ参加数であった。(133名)

支部からの助成金について, 本部からの要請により以下のように変更があった。従来は, 若手の会の助成金として50万円を春の講演会の世話人に振り込み, その残額が夏季セミナーの世話人に直接振り込まれていた。本年からは, 支部から春の講演会および夏季セミナーへそれぞれ助成金を概算で支払い, 残額を支部へ返金する形となった。

第58回分析化学講習会

8月8日(火)～10日(木)に九州大学伊都キャンパスおよび福岡市産学連携交流センター、福岡大学理学部において開催された第58回分析化学講習会について、実行委員長の竹中繁織先生(九工大)から概要が説明され、詳細は佐藤しのぶ先生(九工大)から説明された。

本年度は、支部の前執行部が分析化学講習会の実行委員会を担当することとした最初の年度であった。今年度は、50名(のべ141名、1つのコースのみの受講も認められている)が参加した。また、日本メルクや日本オルガノによるランチオンセミナーやOPACKからも要望のあった情報交換会を開催した。今後、第3回実行委員会を開催の予定である。第3回実行委員会を持って、今年度の分析化学講習会の会計が閉められることが報告された。

機器分析ワークショップ ; インハウスセミナー

川上健次様((株)ジェイ・サイエンス西日本)より、機器分析ワークショップの概要とアンケートの結果について説明がなされた。本年度は、5月16～17日に戸田支部長の協力で熊本大学薬学部附属創薬研究センターにて新技術インハウスセミナーが、5月24日に中山常任幹事の協力で長崎大学薬学部にて機器分析ワークショップ2017in長崎(36名参加)、10月27日に吉田常任幹事の協力で福岡大学中央図書館多目的ホールで機器分析ワークショップ2017in福岡(38名参加、水俣など遠方からも参加)が開催された。また、神崎常任幹事の協力で2018年1月19日に鹿児島大学で行う予定であることが報告された。

学会共催・後援・協賛

庶務幹事の太平より、12月2～3日に開催予定の日本中性子科学会第17回年会の共催認可について報告がなされた。

2017年度九州分析化学会賞・奨励賞

6月3日に開催された選考委員会について、選考委員長の高椋利幸先生(佐賀大)より報告がなされた。1名の九州分析化学会賞と2名の奨励賞候補者について、8名の委員で選考を行い、十分な業績と実力を持っていることから、全員に対して授賞を決定したことが報告された。本年度の受賞者は以下の通りである。

【九州分析化学会賞】

片山佳樹先生(九大院工)

【九州分析化学奨励賞】

中野雄太さん(九大院工)

廣田和敏さん(熊大院自然)

第54回化学関連支部合同九州大会

庶務幹事の平慎一より、7月2日に開催された第54回化学関連支部合同九州大会についての報告がなされた。高椋利幸先生(佐賀大)による依頼講演や54件のポスター発表が分析化学のセッションで実施された。

九州分析化学ポスター賞は8名の委員によって選考され、4名の授賞(審査対象47件)を決定したことが報告された。受賞者は以下の通りである。

中島生羽さん(九工大院工)

弥永洋平さん(九大院工)

網屋祐輔さん(九大院生物資源)

Willy Cahya Nugrahaさん(熊本大院自然)

また、来年度以降の日程について、担当学会について報告された。担当学会については、31年度以降、日本化学会九州支部が担当していく案がある旨、報告された。合わせて、ポスター審査員の選考に苦勞していることから、講演申込みはもちろん、審査員となっただけのように先生方の参加も依頼された。来年度、第55回大会のスケジュールも合わせて報告された。(発表申込3/1~4/11, 予稿原稿締切5/11, 大会当日6/30)

2) 2017年度支部会計中間報告

支部会計について田中会計幹事より報告された。収入は予算通りだが、若手の会事業が開催助成金獲得により若干多くなった。一方、支出も予算通りに運んでおり、幹事会以降60万円の支出が見込まれ。次年度への繰り越しもほぼ予算通りであることが報告された。

3) 理事会報告

肥後盛秀先生(鹿児島大院工)より、常任幹事会以降の理事会について説明があった。

第77回分析化学討論会(5/27~28, 龍谷大, 京都)については、討論会参加数725名(798名@鹿児島), 懇親会261名(265名), 発表件数418件(486件)であった。また、会場使用料が必要なく経費が節減された旨、報告された。

分析化学会の各賞の受賞者について報告された。

本部web委員会には、年会、討論会からも担当者が委員として入ることが報告された。

会員数の現況について、10月4日現在5923.5人であり、昨年度同時期6013.5より減少している。産総研松田先生より、本年2月から4月にかけて正会員が300名程度増加している理由について質問があったが、理由については不明である。

4) 本部支部連絡会議

支部長の戸田敬先生より、第1回及び第2回本部・支部拡大連絡会議についての以下の報告がなされた。

本部の会計状況は順調である。

収入状況については、2億円のうち、半分が事業収益、30%が会費納入である。

本年度年会の参加数1106名、また、同時開催のCJK参加数247名であった。

「ぶんせき」が専門的すぎるとの意見があり、高校生向けの記事についても検討されている。

会員の状況、特に退職や支部参与の把握が支部に依頼されている。（関西支部では2年連続でメールに返信が無ければ、名簿から削除。）

5) 各誌編集委員会

Analytical Sciences

編集委員の宗伸明先生にかわり庶務幹事の太田より、7月30日、9月11日に開催された第3回～第4回「Analytical Sciences」編集委員会議事録についての説明がなされた。

科研費の目標達成のため、Executive associate editorが創設され、8名が任命されたこと、また、継続して新しいEADを募集していることが報告された。また、7月号からHighlightsが新設され、編集委員が交代で執筆していることが報告された。論文審査の期間短縮のため、審査依頼を引き受けていただきたい旨、また、できるだけ早く返していただきたい旨の依頼がなされた。インパクトファクター向上のため、論文執筆の際に、引用してほしい旨の依頼もなされた。

分析化学

編集委員の藪下先生(九大総理工)にかわり、庶務幹事の太田より9月12日に開催された第2回「分析化学」編集委員会の議事録についての説明があり、2018年の年間特集が「膜」であることの報告、ならびに投稿数をあげるための協力をお願いがなされた。

ぶんせき

7月21日に開催された第3回「ぶんせき」編集委員会について、編集委員の富安先生(鹿児島大理)より提出された資料に基づいて、庶務幹事の太平より議事録の説明が行われ、2018年の特集テーマが「安全性・公平性」に決まったことが報告された。

6) その他

分析本部のサーバー移転について情報提供がなされた。また、太平からメーリングリストについて、返信方法やリストの更新方法について連絡があった。

2. 審議事項

1) 2018年度支部事業計画案

支部長の戸田敬先生より2018年度計画案について、第55回化学関連支部合同九州大会および九州分析化学若手の会の春の講演会および夏季セミナーについて説明された。

分析化学若手の会 春の講演会

開催期日は5月19日(土)で、福岡大学の中央図書館多目的ホールにて行われる予定であり、4件の講演が予定され、4名の講師から内諾が得られていることが報告された。

分析化学若手の会夏季セミナー

分析化学若手の会 夏季セミナーの案について説明があった。開催期日は7月27日(金)～28日(土)

2) 2018年度支部予算案

次年度予算案について田中会計幹事より説明された。収入は主に支部費と講習会収入であり、現時点での見込額は2017年度と同等である。支出も2017年度と同等で2017年度実績、見込額、予算額をもとに計上した。旅費交通費は次年度支部が佐賀大学に置かれることから支部が九州大学であった年の額に10万円加えた額を計上した。講習会費も年度により変動するが2017年度見込額を計上しており、次期執行部と相談しながら次年度予算案を修正予定と説明された。

3) 支部役員の変更

庶務幹事の太平より、支部役員の変更について説明があった。このほか、支部役員の動向について情報があれば、連絡してほしい旨依頼があった。

4) 2018年度支部・本部関係役員

次年度支部・本部関係役員について、支部長の戸田敬先生より説明があった。次年度の理事、代議員および各誌編集委員について、内諾を得ていることが報告され、承認された。また、2019年度の支部長として、浜瀬健司先生(九州大学薬)の内諾を得ていることも報告された。監査として、戸田先生と内原様が引き受けることを説明し、承認された。また、常任幹事の13名については、11月中に決定し庶務幹事まで連絡することとなった。

5) 分析化学講習会

今後の分析化学講習会について、従来、同じ期間にいくつかのテーマを設定して開催する方法から、各地で独自にテーマ、期間を設定する分散型の開催が提案され、承認された。

OPACKからの資金提供を受けている分析NEXTについては、講習会に対する補助金の提供をお願いするか、講習テーマをひとつ提供していただくよう依頼する。会議の開催は、休日よりも平日夕方の方が企業の会議参加者にとっては良いとの情報も提供された。また、協力会社(機器メーカー)との協力体制を確認すべきである旨、コメントが出された。サテライト開催の講習会をまとめたwebについては、web決済できると便利であるとの意見もあった。

6) 2019年度第79回分析化学討論会

2019年度第79回分析化学討論会について、竹中実行委員長のもと北九州で開催することが決定した。

その他

第10回日韓シンポジウムの共催について

実行委員長の竹中繁織先生より、11月19～21日に開催予定の第10回日韓シンポジウムについて説明され、分析九州支部の共催が承認された。